第７回災害廃棄物協議会（中国ブロック）　議事録

日　時　平成28年3月10日（木）　14：00～16：00
場　所　コープＰ＆Ｓ　オルガホール
議　事
（１）調査検討業務　とりまとめ案について
特に、未報告の下記の点
・関係者アンケート調査結果（未報告部分）
・災害廃棄物に関係する協定の分析（追加部分）
・仮置場確保の事例（東日本大震災での民有地活用の事例）
・図上訓練の手法開発（H27年度試行結果と訓練手法作成マニュアル）
（２）次年度以降の進め方について

１　開会

上田所長より開会挨拶後、事務局より資料確認等が行われた。

（事務局　岩田課長補佐）

資料１、２は公開、参考資料は非公開なので、取り扱いにご注意願う。
ここからの進行は川本座長にお願いする。

２　議事

（１）調査検討業務　とりまとめ案について

（川本座長）

議事（１）「調査検討業務　とりまとめ案について」、事務局から説明をお願いする。

（事務局・ＭＵＲＣ）

本日は、資料１の目次の第１の１～５について追加した内容、訓練に関する内容を中心にご説明する。

参考資料は、東日本大震災等の被災自治体へのヒアリング結果をとりまとめている。これは非公開資料であるので、このような形で別資料とさせていただいた。

（資料１、参考資料を用いて説明）

（川本座長）

今の説明について、特に前半の調査部分について、何かご意見はあるか。

（広島市）

仮置場について中国電力の話を聞かれているので、それに関して補足する。

一昨年に発生した本市の土砂災害の廃棄物処理については、今年２月末で無事終了し、現在、中間処理施設の場所の原状復旧を行っており、皆様方には感謝申しあげる。

仮置場の件について、災害発生当時は、廃棄物を置ける所であればということで中国電力研修施設のグラウンドも利用させていただいたが、仮置場については原状復旧を見据えて選定することが大事である。中国電力のグラウンドでは、芝生が特注であったことや、地下に排水管が埋設されていることを把握できなかったこともあり、現状復旧には、予定より時間や経費がかかっている。仮置場については、まずは市の土地、次に県や国の土地を利用し、それでも不足する場合は民有地という順序が望ましいと思う。

また、一次仮置場から二次仮置場への運搬について、今回、二次仮置場が被災地から少し離れており、地元住民等から、何故ここで処理をという意見もあったことから、運搬には高速道路を利用し、できるだけ一般道路利用を避けることにより、苦情はほとんどなく、処理を無事行えることができた。

以上、実際の経験を踏まえた意見を述べさせていただいた。

（川本座長）

報告書の３ページで発生量推計をしていない理由などが記載されているが、これはいつ時点での調査か。

（事務局・ＭＵＲＣ）

今年度の調査結果である。

（宗委員）

64ページに訓練の振り返りシートの結果が示されており、今後、自分の所属組織で訓練をやりたいかという質問では、「とても思う」「思う」と回答した人が多数を占めている。その中で「どちらともいえない」という回答の人もいるが、その理由として「小さな自治体なのでできない」「実施できる体制やノウハウがない」といったことが挙げられている。訓練後にも意見を言ったが、いざ災害が発生した際に、被災市町村が実際に動けるかどうかというのが大事なポイントである。したがって、各自治体が、今後、訓練を実施することは重要だと思う。その意味で、78ページからの訓練手法の作成マニュアルは役に立つ。特に初動期が混乱するので、初動期に慌てずに動けるような訓練が大事だと思う。そこで、訓練手法の作成マニュアルをもとに小さな自治体でも実施できるように、作成例の作成を今後検討戴けたらと思う。例えば、初動期の組織の立ち上げ手順だけに絞った細切れのマニュアルの作成例が考えられる。今回実施した訓練は、時間の関係でいくつか手順をはしょっている部分もあったが、作成例ではより詳細なものを検討いただけたらと思う。

（川本座長）

全体を通して意見をいただければと思う。

（広島県）

今回、広島市の土砂災害の事務もしつつ、本協議会にも参加し、協議会では日頃の備えの必要性などの勉強をさせていただいた。災害時には、災害廃棄物処理はもちろんだが、意外に補助金関係についても準備する必要があると思う。行政が補助金に関わる事務量は大きく、特に都道府県は災害時の事務としてかなりのウエイトを占める。災害規模によっては復興に長期間かかる場合も多く、繰り越し事務も発生する。恒常的な施設整備の交付金とは異なり、緊急性に加え、補助金に対するノウハウが無かったため難しかったという実感もある。今後、補助金事務の部分も、協議会の中で知見を深め、共有化していけたらどうかと思う。広島県としても情報提供できる部分はあると思う。

（事務局　上田所長）

宗委員から発言のあった発災の立ち上がり部分などにおける細切れマニュアルの作成について、なるほどと思ったが、まずは各自治体のニーズの把握が必要かと思う。目的に応じたマニュアル作成が基本であり、そのようなことの記載は補足できればと思うが、たちまちに細切れマニュアルを作成するというのは難しい。

あと、広島県の意見について、今回の訓練では、補助金事務を見据えできるだけ記録をとるという手順を加えている。実際の補助金事務まで訓練に盛り込むのは少しやり過ぎの気がする。

（広島県）

今年度、訓練マニュアルに盛り込むことまでは考えていないが、今後災害が発生した際に被災自治体が困ることの無いよう、来年度以降知識共有をする場があればした方が良いと思う。

（事務局　上田所長）

今年度の追加調査は難しいが、必要あれば来年度の調査に盛り込むことは考えられる。あるいは、本業務と別業務で、広島市の土砂災害廃棄物処理の記録誌作成も実施しているが、その業務の中で整理するということも考えられる。

（事務局　岩田課長補佐）

毎年セミナーを開催しているが、そのメニューとして、国等から補助金の話をしてもらうことも１つの方法かもしれない。

（川本座長）

本資料はとりまとめ案というタイトルだが、最終、どのような形に仕上がるのか。

（事務局・ＭＵＲＣ）

委託業務の報告書という形で、中国、四国合わせて取りまとめようと考えている。また、内容について、最終確認させていただこうと考えている。

（２）次年度以降の進め方について

（川本座長）

それでは、議事２をお願いします。

（事務局　上田所長）

（資料２を用いて説明）

（川本座長）

来年度、協議会として想定される回数は２～３回と思うが、幹事会の頻度はこれから検討されるのか。

（事務局　上田所長）

必要に応じて開催することを考えている。協議会にお諮りする内容について議論いただくというような形になると思うので、協議会と同程度の回数と考えている。

（川本座長）

来年度の進め方について皆様に理解いただけたと思うので、よろしくお願いしたい。

「３　その他」からは、事務局の方で進行をお願いしたい。

３　その他

（事務局　岩田課長補佐）

今年度のモデル事業として、広島市の土砂災害の記録誌作成マニュアルの検討を進めており、その事業については、日本環境衛生センターにお願いしている。

ここで、その担当者である日本環境衛生センター堀内課長と広島大学奥田先生からマニュアルについての説明をお願いしたい。

（日本環境衛生センター堀内課長、広島大学奥田先生）

（「非常災害による災害廃棄物処理に関する記録誌作成マニュアル／ガイドライン（土砂災害編）（案）」を用いて説明）

（日本環境衛生センター堀内課長）

本マニュアルは未完成であるが、最終ページに連絡先を書いてあるので、３月17日（木）までに意見があればいただきたいと思う。極力意見を反映して、できるだけ自治体の方に使いやすいものにできればと考えている。

（事務局　岩田課長補佐）

ご協力をお願いしたいと思う。

今後のとりまとめまでの予定について、本日のご意見を踏まえ、資料の修正を行い、修正した資料に、これまでの協議会の議事録やヒアリングメモ等を資料編として一冊にし、報告書としてとりまとめる。報告書は３月中にとりまとめたいと思うので、短時間で恐縮であるが、資料確認のご協力をお願いする。

最終完成した報告書については、協議会メンバーやブロック内の全市町村に郵送する予定である。

（広島市）

先ほどの説明のように、広島市の土砂災害について、記録誌を作成いただいている。

できるだけ、当市の経験を皆様にお伝えし、参考にしてもらえればと思っている。

あと、災害時には、とにかく写真を撮影した方が良い。今回、当市でもなかなか使える写真がなかった。使えないと思うような写真でも、後々、使えることもある。

４　閉会

（事務局　岩田課長補佐）

記録誌については今年度中に完成する予定なので、来年度の第１回目の協議会で、おそらく記録誌を配布できると思う。

それでは、第７回災害廃棄物協議会を終了する。ありがとうございました。

以　上